

〈巻頭言〉



年頭に当って

豊田 高司*

昨年は日中韓3カ国による「東アジア地域ダム会議」を発足させました。そして「土砂管理」および「最近のダム建設技術」をテーマとして第一回東アジア地域ダム会議シンポジウムを10月に中国・西安で開催し、日本41名、韓国29名、中国49名が参加し熱心な討議が展開され非常に有意義でありました。

われわれのダム技術やダム事業への真剣な取組みを広く海外に発信し、海外から率直な意見を聞くことは、わが国のダム技術の国際的な評価を高めるためだけでなく、わが国のダム事業を推進する上でも重要なことと考えます。

このような考えから2000年9月には「水源地整備国際セミナー」、2002年8月には「流域の水管理と貯水池の役割国際セミナー」を開催し、近隣の韓国、中国だけでなく東南アジアや米国、中南米、ヨーロッパなどからの参加を得て、わが国のダム事業への取組みについて発表し討議して頂きました。

また、2001年11月には日韓大ダム会議技術交流会を設立し、毎年交互に技術交流セミナーを実施してきました。この日韓大ダム会議技術交流会に中国を加えて冒頭の日中韓3カ国による「東アジア地域ダム会議」に発展的に衣替えしたのです。

そして今年は10月に第2回東アジア地域ダム会議シンポジウムを兼ねて、「土砂管理とダムに関する国際シンポジウム」を日本で開催します。このシンポジウムでは主テーマの貯水池堆砂問題の討議に加えて、「既設ダム再開発」と「水源地域対策」を討議テーマとする予定です。

主テーマとしている「土砂管理とダム」は持続可能なダム事業を推進する上で大きな課題であり、この問題は上流流域から河口周辺

* (社)日本大ダム会議 会長

の海岸地域に至る流域全体としての施策の中で解決策を見出していく必要があります，多分野に亘り学際的に取組む必要があります。このため，関係する学術団体等の協力も得て，実施する予定です。会員の皆様方の積極的なご参加を期待しております。

国際大ダム会議の年次例会が毎年，そして3年に一度は大会が開催され，わが国から多くの会員が参加をし，加盟80カ国の方々と交流し高い評価を頂いていますが，日中韓3カ国で開催する上述のようなシンポジウムや会議では，討議するテーマや内容に共通する関心事項が多く，歴史や文化を共有している面も多くあり，一味違った打ち解けた雰囲気の中で良い討論がされているように思います。

この日中韓3カ国は世界でも最も真剣にダム事業に取り組んでいる国々ですので，新しく発足した「東アジア地域ダム会議」を今後とも充実させて，ダム技術に関する世界への発信基地にしていきたいと思っております。会員の皆様には各種の技術分科会や委員会など当会の運営や活動に積極的に参加して頂いておりますが，今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

